

航空交通流の実態解析及び 交通容量の実情推測

レーダデータに基づき、交通量、交通特性及び空域等の条件によって生じる航空交通の状況などについて解析する

株式会社ANA総合研究所

客員研究員 山本哲士

空域等の条件と航空交通流の 関連性を示すと考えられる主な項目

(管制方式基準)

航空交通流: 空中における航空機の交通の量及び特性並びに飛行する空域等の条件によって生じる航空交通の状況をいう。

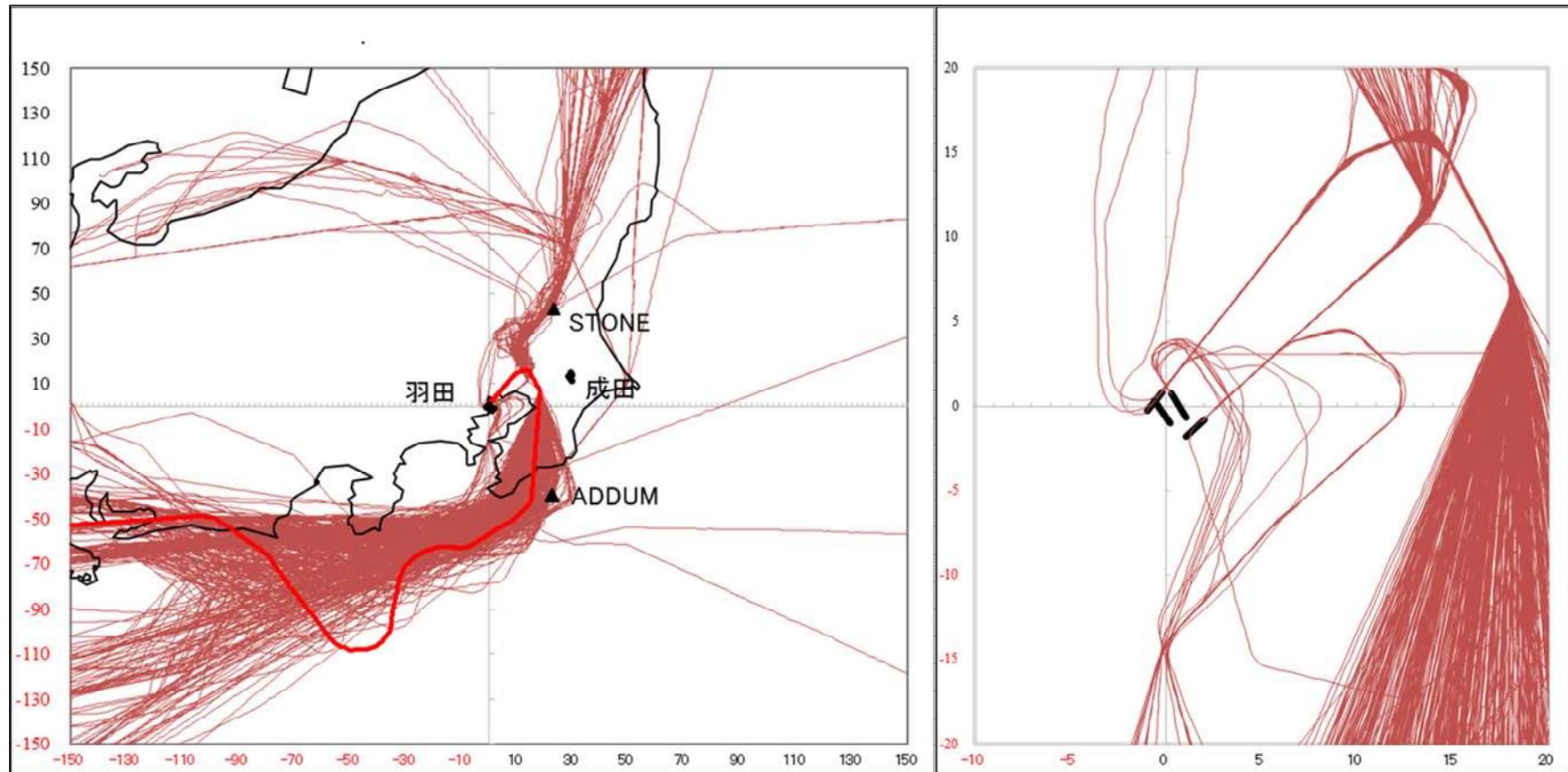
- 管制方式・管制支援機能
- 航空機のATM能力
- 空域の形状など
- 飛行航跡
- 飛行距離
- 飛行時間
- 飛行高度

発表内容

東京国際(羽田)空港の離陸及び着陸便の航空交通流データ解析結果の一部を紹介する

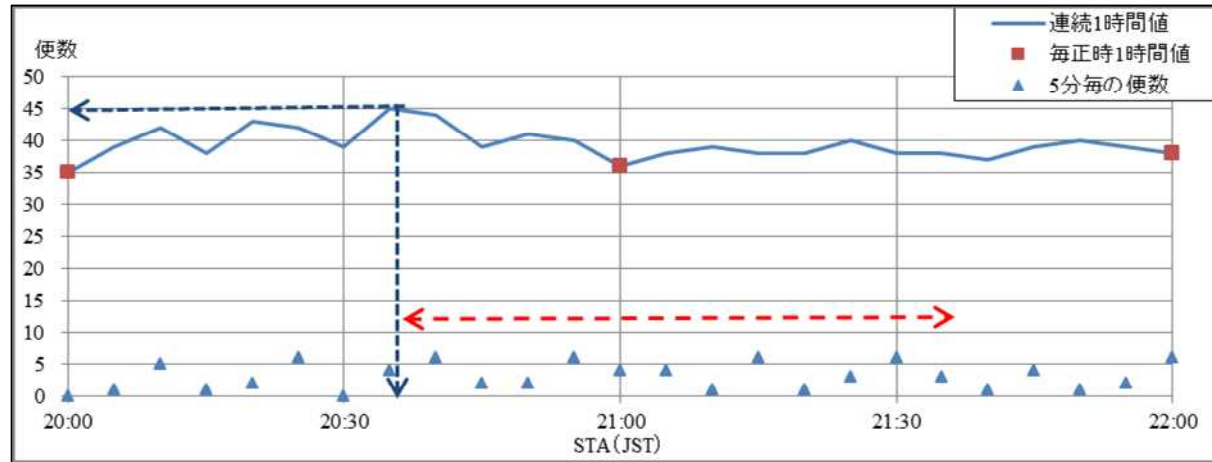
- データ期日： 2013年5月7～13日
 - データ数 : 離陸: 3767, 着陸: 3770, 合計: 7537
1. 単位時間(60分)あたりの交通量
 2. 飛行高度の特性など

到着便の航跡(2013/5/11)

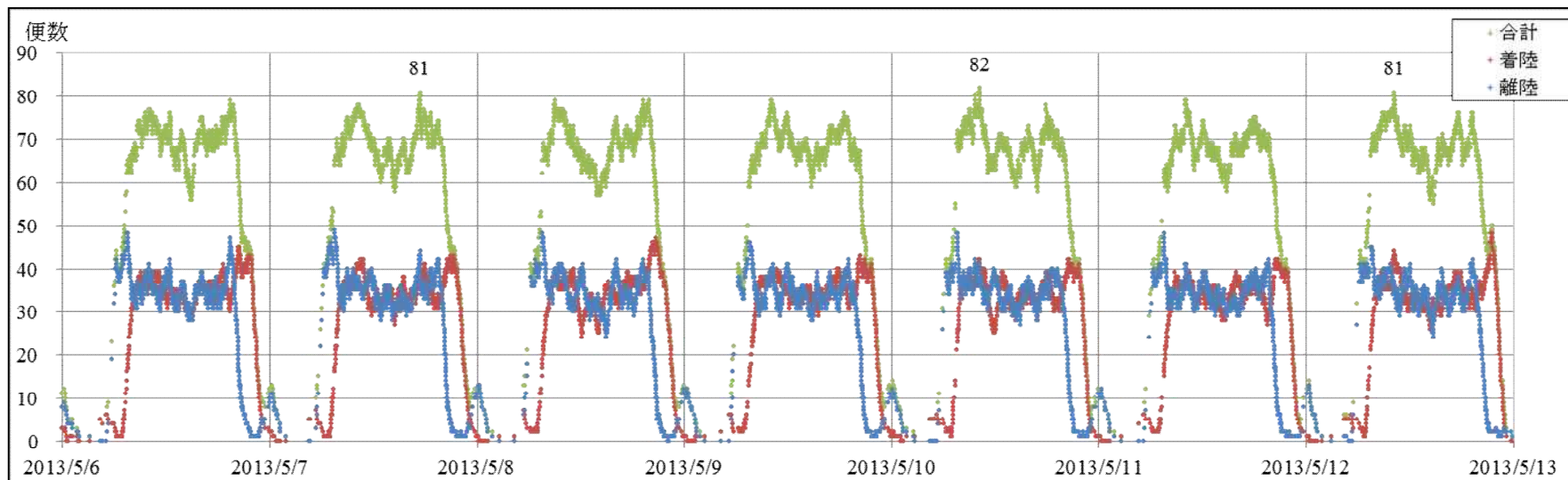


赤線： 当日のADDUM経由到着便の最長飛行距離の航跡

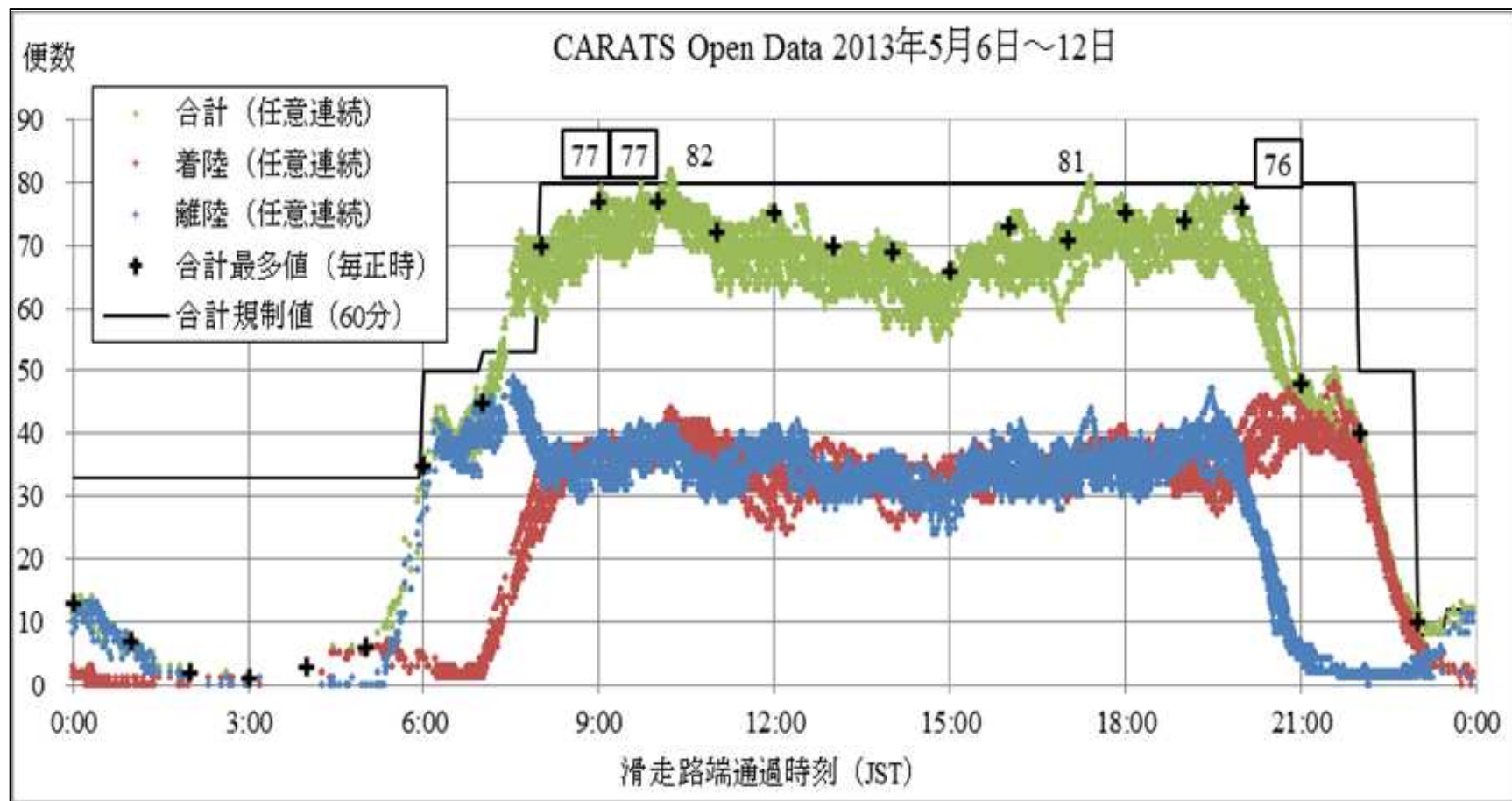
単位時間あたりの航空交通量



従来からの計測は、
毎正時から60分間の
場合が多い。(X時台)
容量の観点からは、
任意の連続する60分
間を計測するのが合
理的

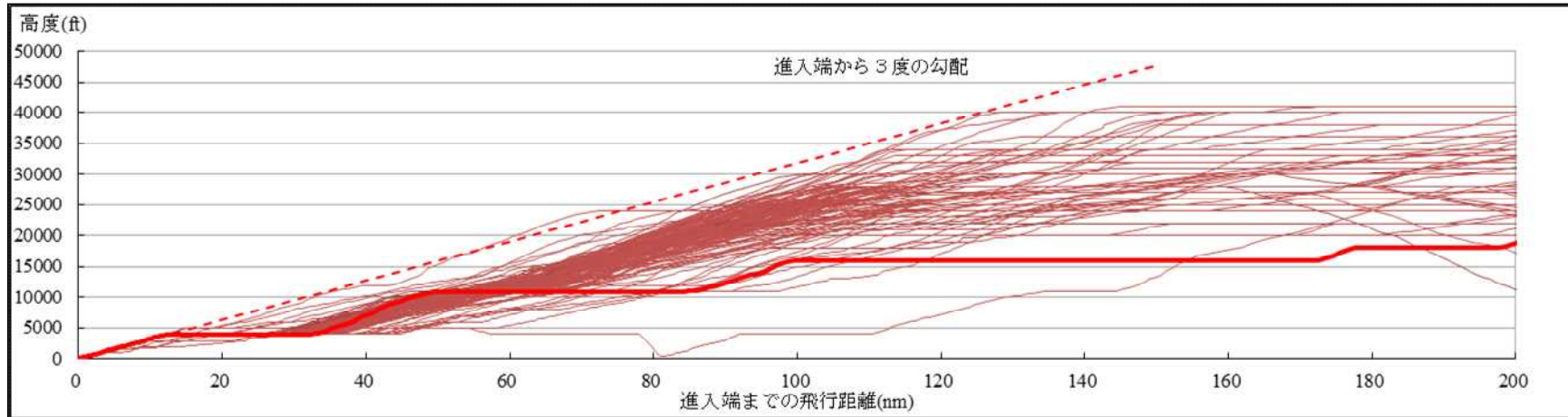


毎正時測定と任意連続測定との値を比較すると

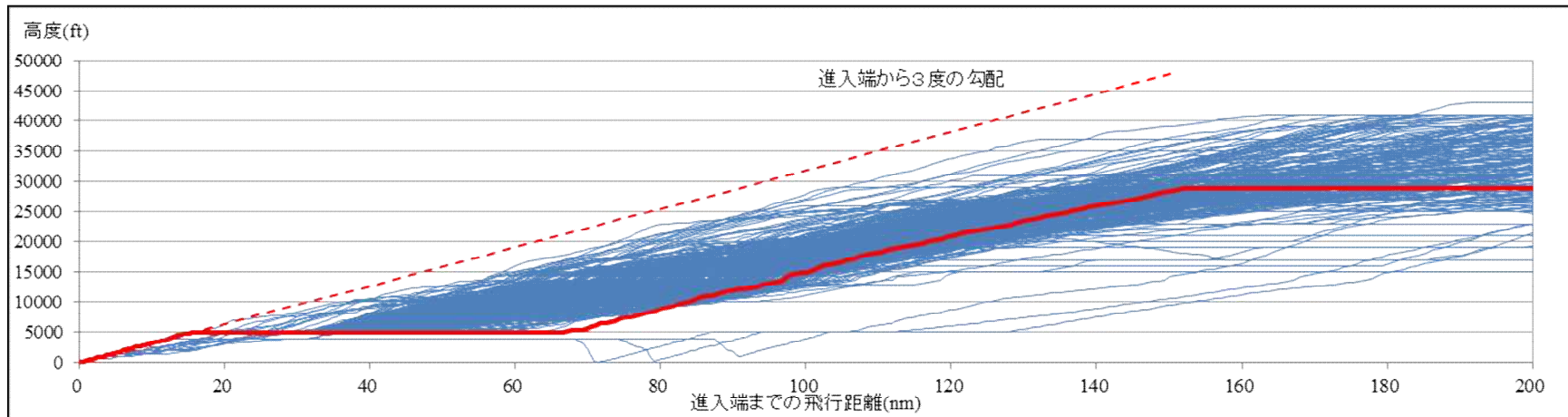


任意連続測定値は、実態のピーク値が明確に示される

到着便の飛行高度(2013/5/11)

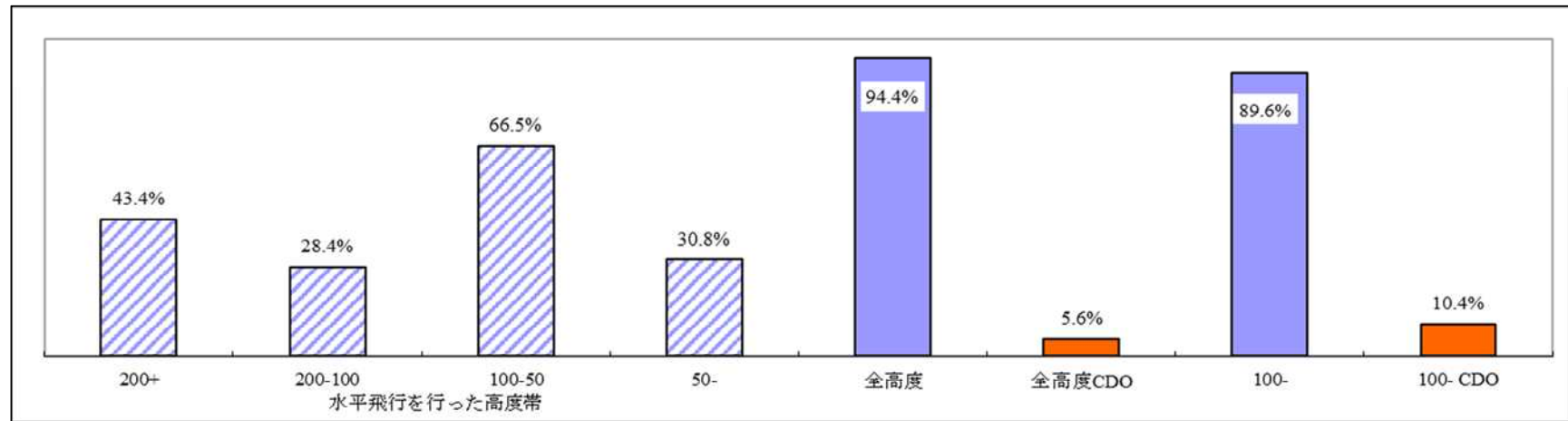


- STONE経由到着便

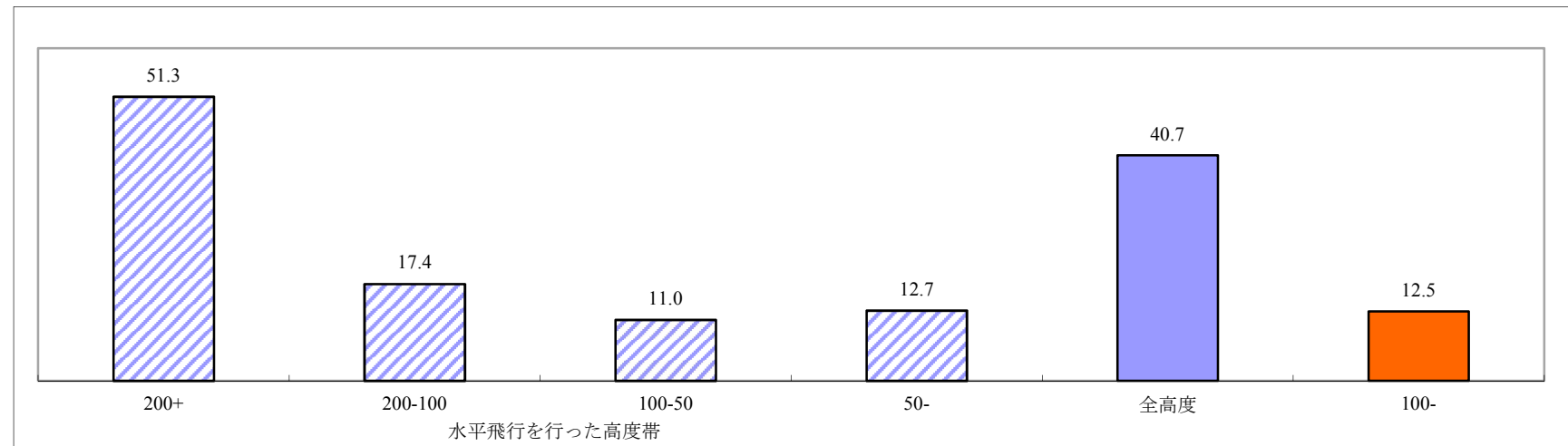


- ADDUM経由到着便

到着便のCDOの状況(2013/5/7~13)



- CDO(Continuous Descent Operation)便の割合



- Non-CDO便の平均水平飛行距離